

## 平成19年度文部科学省「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)に 現代中国学部の『中国関係事業に飛翔する国際人材の涵養』が選定されました

愛知大学では、文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」(現代GP)として、現代中国学部で実施している『中国関係企業に飛翔する国際人材の涵養—中国現地インターンシップを仕上げとするキャリア教育の実践』を申請し、この度選定が決められました。

応募内容は下記のとおりです。選定にあたっては、これまでの実績と教員・職員・学生からなる実施体制及び学生教育の多面的努力等が高い評価を受けました。なお、現代中国学部は平成15年度にも「中国現地重視の学部教育」の取組が文部科学省「特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)」に採択されており、今回の選定により同一学部で2件目の選定となりました。特色ある優れた教育と同時に、教育を通じたキャリア支援・就職への取組の面でも評価を受けたと言えます。

- 現代中国学部の現地重視教育については→こちらをご覧ください。
- 本学のキャリア支援については→こちらをご覧ください。



### ※現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)とは

各種審議会からの提言等、社会的要請の強い政策課題に対応したテーマ設定を行い、各大学等から応募された取組の中から、特に優れた教育プロジェクト(取組)を選定し、財政支援を行うことで、高等教育の活性化が促進されることを目的とするものです。(文部科学省HPより)

平成16年度から平成18年度まで、1,633件の申請がありそのうち282件が選定されました。本年度は600件中119件が選定(採択率19.8%)されています。

大学・短期大学	愛知大学
申請テーマ	実践的総合キャリア教育の推進
取組期間	平成19年度～21年度
取組名称	中国関係事業に飛翔する国際人材の涵養 (副題「中国現地インターンシップ」を仕上げとするキャリア教育の実践)
取組学部等	現代中国学部
取組の概要	現代中国学部は学部創設以来、日中関係の橋渡しとなる人材育成を目的に中国現地での教育を重視してきた。平成17年からは中国“現地”の日系企業の“現場”にて、製品・サービスの“現物”に触れ、そこでがんばる日本人幹部、中国人従業員の“現人”とともに働き学ぶ(4現主義と呼称)、「中国現地インターンシップ」を実施している。今後は学生間経験伝達システムを縦の糸、正課と正課外教育の結合を横の糸とする重層的カリキュラム体系を構築し、「中国現地インターンシップ」を仕上げとする総合的なキャリア教育を実践する。高年次生の現地体験を低年次生に正規科目を通じて効果的に伝達し、中国語マスターの必要性、自己啓発を促す。同時に中国関係企業に従事する卒業生、学内のキャリア支援課のプログラム等と有機的な連携を図り、職業人意識の自覚、能力開発の向上をめざす。こうして中国関係事業に飛翔する国際人材を涵養する。
選定理由	本取組は、学生の卒業後、中国はもとよりアジアに飛翔し、幅広く活動できる人材を育成、涵養することを目的に、正課と就職支援を中心とする正課外教育の結合を図り、現在実施中の中国現地インターンシップを産学連携で充実させるべく総合的なキャリア教育を実践しようとするものです。 当該大学におけるこれまでの実績と教員、職員、学生からなる実施体制から判断して実現可能性は高く評価します。また、取り組みの実施計画における内容が具体的かつ指導方法の検討など学生教育に多面的努力がなされていることが評価できることから、学生の主体的学習意欲向上に成果が期待され、他大学が参考となるものがあると認められます。 平成20年度からは単位認定の体制も採られるとのことについては、中国現地でのインターンシップは10日程の実働ではあるが、その前後に事前の指導や報告書作成や報告会開催等も計画されており、安易な単位認定にはなっていない点は高く評価できると思われます。 なお、評価方法については、アンケート、インターンシップ報告書および報告会等に基づいて評価することが中心となっていますが、キャリア教育で重要な点は、キャリア発達の段階的評価であり、さらに加えて事前・事後の段階でキャリア発達評価が可能となる方法の検討が求められます。